

施設職員(奥3人)のサポートを受け七夕飾り作りを楽しむ親子



養護施設で子育てサロン

東海・北陸

地域のよりどころに

地域の子育て家庭のよりどころになればと、名古屋市昭和区の児童養護施設「駒方寮」(二つの地域小規模施設含め定員51人、社会福祉法人昭徳会)は6月、本体施設で子育てサロンを初開催した。親子で楽しめる季節の遊びを提供し、年3回平日の午前中に実施していく方針だ。

駒方寮 (名古屋市)

「地域との共存」を掲げる駒方寮では児童指導員ら職員5人でつくる地域貢献委員会を設置しており、さまざま

まなイベントを企画している。

昨秋には、施設で暮らすこともその友達が仮装して施設近くの商店街を歩き、お菓子をもらう「ハロウィンウォークラリー」を開催。参加した保護者に「駒方寮に期待すること」を尋ねたところ、子育て支援に期待する声が多く寄せられた。

この思いを受け止める形で企画したのが子育てサロン「こまちゃんわくわく広場」。季節の遊びを一緒に楽しみながら、息抜きや情報交換できる場として

1階の地域交流スペースを約1時間開放。定員は0〜3歳の子どもと保護者10世帯。準備や当日の進行は地域貢

献委員会に所属する職員が担う。

近隣の福祉施設や保健センターを通じて参加を呼び掛け、初回の6月26日には5組の親子が参加した。昭和保健センター職員による歯磨き教室の後、親子は短冊に願い事を書いたり、夏野菜のピーマン、ゴーヤ、キュウリなどを使った「野菜スタンプ」で模様を付けたりして織姫と彦星の七夕飾り作りを楽しんだ。

濱田光男施設長は「閉鎖的な施設ではな

社会福祉法人昭徳会 1912年、現名古屋市の仏教感化救済会内に創設された、孤児らを養護する「育見院」が法人のルーツ。現在、愛知県内を中心に児童養護施設、自立援助ホーム、保育所、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、障害児者入所施設など19施設61事業を運営。日本福祉大(愛知県)は法人初代理事長の鈴木修学が開学した。

く、地域に溶け込んでいる施設でありたい。職員の視野が広がるきっかけにもなれば。社会資源として今後も地域に貢献していく」と力を込める。

子育てサロン以外では、昭和区の重層的支援体制整備事業の一環で、引きこもりや社会から孤立している人らが集う場「つながりづくりの拠点」にもなっており、同区社会福祉協議会と連携しながらさまざまな課題を抱えた人の社会参加を支援している。(市川傑)